



片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員

一括質問

## 不妊治療と公共財産 マネジメント、市道幸町八幡線

### ◆不妊治療について

**Q** 不妊治療の保険適用について。

**A** 人工受精など不妊治療は自己負担であったが、令和4年度から基本治療は保険適用で、3割負担となった。生殖補助医療等は保険適用外のものもある。

**Q** 生殖補助医療の助成制度の検討と用途は。

**A** 治療希望者の負担軽減のため、治療方法の動向や治療費など情報収集し、9月を目途に助成制度の整備を検討。4月に遡り適用予定。

### ◆带状疱疹のワクチンについて

**Q** 一部助成の検討は。

**A** 国によりワクチンの副反応等の評価や、带状疱疹罹患の負担や費用対効果などが検討されており、動向を注視していく。

### ◆公共財産マネジメントの推進

**Q** 建物の経年・改修時期を迎えた施設はどれくらいあるのか。

**A** 令和3年3月末で築30年以上経過の公共建築物の延べ床面積は約26・8万平方メートル、全体の約57%である。

**Q** 見直しテーマのこまつドームと千松閣についての対処は。

**A** ドームは、施設スケールや機能を生かすため、プロポーザルにて提案をいただき、形態及び機能の再検討を行う。千松閣は、社会の変化、市民ニーズ、代替性など全体最適の観点から検討。

### ◆市道幸町八幡線沿いの都市計画について

**Q** 都市計画道路開通後の市街化調整区域見直しの考えは。

**A** 宅地整備の機運が高まり、市街地の拡大が必要になった場合は市街化調整区域の編入など計画見直しの必要性を検討する。

**Q** 沿線活用のため公共施設の配置やまちづくりデザインの所感。

**A** 生活利便性が高く、潤いある暮らしが実感できる地域となっている。現時点では、公共施設の新たな予定はない。



市道幸町八幡線



竹田 良平(たけだりょうへい)議員

一括質問

## 小松市民病院に関して等

### ◆小松市民病院に関して

**Q** 現在の医師・看護師など医療従事者の皆様の働き方、残業の状況については。

**A** AI問診の導入、看護師のユニフォーム色分けによる日勤・夜勤者の見える化などにより、業務の効率化を図っている。看護師の令和3年度残業時間は1月あたり11・4時間であった。

**Q** 看護師等の収入を約1%引き上げる為の国の補助金について。地域の拠点病院である市民病院での看護師等の処遇改善の対応は。

**A** 令和4年2〜5月支給分で、看護師・診療放射線技師など延べ1,631人、400万2,909円の処遇改善を実施。

**Q** にぎわいの増加に向けて、定住人口の増加に向けて、民間企業からの採用も含め、市職員に応募したいという方が増えるようどう取り組んでいくか。

**A** 行政職(職務経験者)の募集、職員採用募集パンフレットの内容充実、SPI試験への変更など、転職希望の方など多くの方の目に留まるような取組を行っている。

**Q** 公立小松大学の昨年度卒業生の就職内定率と、就職先について県内と県外の比率は。

**A** 就職内定率は100%、就職先は県内53・9%、県外46・1%となっている。

**Q** 企業誘致は自治体間競争になつていて、固定資産税の減免など他自治体でも様々な方策をとる中で、本市の訴求点としてどのような点を入れているか。

**A** 初期投資に対する資金的支援として、原則最大5億円、大型投資等は特別で10億円まで助成できる。県内自治体の中でトップクラスの助成金制度である。

**Q** 新しい産業団地の適地調査について、前回候補地として挙げがっていた小松北部地区も候補の一つかと思うが、どのような基準で行っていくか。また、今後のスケジュールは。

**A** 小松北部地区など前回選考対象であった地域も含め、面積や交通アクセス、整備コストなどを総合的に検証し、今年度末までに候補地を決定していく方針である。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

## 公共施設マネジメントの推進と新しい産業創出に向けて

◆こまつドームの今後の利活用について

Q こまつドームのアリーナが抱える課題は。

A 市民のスポーツ活動を中心に利用されているが、当初の目的や施設規模等に見合っていないかと、いうと乖離があると考えている。

Q プロポーザル実施に向けて、アリーナ以外の施設の運営はどうか。

A アリーナ以外の施設は現在の使用形態を維持することしたい。管理運営はアリーナと一体で行うことが望ましいと考えている。

Q 全国大会・国際大会の誘致はできないか。

A 施設の特性等を生かしたものの、市の発展に資するものといった基本的な方向性を想定しており、全国や国際規模の利用が進む提案があればありがたい。

◆eスポーツによる産業創出について

Q eスポーツに関わる企業誘致をできないか。

A 一丁産業等を誘致する中で、eスポーツに関わる企業も積極的に誘致してまいりたい。

Q イベントや大会を通じた地域交流、及び高齢者や障がい者への取組について。

A eスポーツは年齢や障がいの枠にとらわれず、またオンラインでの開催が可能であり、機会を捉えて積極的に大会の誘致・交流拡大を図っていききたい。

◆防災・減災への取組について

Q 災害が起こったとき、高齢者や障がい者の避難について福祉避難所の受入体制は難しいと聞く。本市の対応はどうか。

A 要配慮者の方が利用している施設へ避難できるように、また安心な避難所運営を図るため、今月第1号の指定福祉避難所の指定を行う。今後はさらに指定を促進し要配慮者の安全避難につなげていく。

Q 防災意識向上に向けて、子供への必要と思うが、消防や学校ではどのような取組を行っているか。

A 消防では防災意識啓発イベントの実施や市内小学4年生を対象に防災教室等を実施。学校では社会・理科等での学習のほかハザードマップを活用した授業を行うなど取り組んでいる。



杉林 憲治(すぎばやしけんじ)議員

一括質問

## 女性が活躍できるまちづくり

◆こまつ新交流ビジョンの策定について

Q ビジョン策定のねらいは何か。

A 市民や観光客など交流の拡大はもとより、文化、スポーツといった視点で交流拡大を目指し、持続可能、世界的、多様性を持った次世代都市こまつを推進するため。

Q 2040年までを計画期間とした理由は。

A 2040年は市制100周年の年でもあり、ここを見据えた取組をするため。

Q 市民11人のワーキング部会の声をどのように取り入れるのか。

A それぞれの立場で「交流・観光」というキーワードで何ができるかを意見交換していただきたい。

◆小松城址の現状と管理について

Q 城めぐりブームといわれ、小松城址を訪れる人が増えているが周辺の管理が十分でない。今後の対応は。

A 本丸櫓台石垣（たかだか）は、県立高校の敷地内にある。市も定期的に周辺の草刈りなどを実施している。

Q 車やバスの駐車場、トイレがない。観光客の声に対策は。

A 小松城の魅力は櫓台の石垣だけでなく、城全体の構成やスケールが大切だと考えている。案内する際は、三の丸跡の芦城公園を散策し、二の丸跡、本丸櫓台へと順に案内していることから、見学者は博物館近隣の駐車場を利用してもらう。

◆若年層の女性が減っている

Q 女性若年層の人口流出が増えているのは。

A 2020年の国勢調査で、20歳から24歳の女性は就業時に本市を離れることが多いことから11・1%の転出超過となっている。

Q 女性の就業率は全国トップクラスだが、管理職の割合は。

A 令和4年度で28・9%となっている。

Q 4月からスタートした第5期共同参画推進プランはどのような内容か。併せて特徴は。

A 小松市に住む・働く・学ぶ全ての人が、性別・年齢・国籍・障がいの有無・就労形態等に関わらず、誰もが活躍できる共生社会の実現を目指すもの。第5期は生涯安心して暮らし続けられるまちづくりを重点的に行う。



宮西 健吉(みやにしけんきち)議員

一問一答

## 新幹線開業に向けて駅前広場に「マツの木を移植しては」

### ◆駅前広場再整備費について

**Q** 駅前広場再整備費3億6千万円が3月当初予算で可決した。整備費の詳細は。

**A** 3億5千万円が西口広場の整備費用で、その他は工事に伴う修繕費用。

**Q** 市制40周年(昭和55年)に市の市草、市の木はマツ、市の花は梅が制定された。2024年3月北陸新幹線小松開業に向けて、小松の顔として、駅前広場にマツの木を一本移植しては。

**A** マツの移植について、芦城公園からということであるが、芦城公園のマツは大木で、大切な財産。造園組合が年間管理し、親方が若い担い手に技術を伝承している。芦城公園のマツの移植はリスクが高く、考えてはいない。

**Q** 芦城公園のアカマツ一本の移植を。

**A** 駅西の市民広場の一角に弁慶、富樫の像、関所門、クロマツが1本植えられている。中木で、手入れをしている。クロマツは雄松、アカマツは雌松といい、冬の風物詩にもなることから、樹種選定の選択

肢とし検討していく。大木は枝ぶりが大きく、車や人が通る場所なので中木と思っている。

場所は、送迎用の一般車両の駐車場のその一角で芦城公園でない場所から持ち入れたいと考えている。

**Q** 駅前広場の街路樹、さくら並木が枯れている。原因は。今後の対応は。

**A** うらら横の桜はベニユタカという八重桜で、5月中旬、異変を察知し、5月下旬に桜専門の樹木医が現地調査をした。結果は、著しく衰弱しているという見立てであった。

今後、7月に科学的に土壌の分析等を原因究明のために行う。完全に枯死した場合は、風で倒れたり、折れたりということがあるので植え替えと考



芦城公園の認定樹齢400年のアカマツ(江戸の松)



新田 寛之(にいたひろゆき)議員

一問一答

## ごみ減量化に向けた指定袋無償配布制度の見直しは、今ではないと考える

### ◆騒音区域の住宅防音工事について

**Q** F15墜落事故後、訓練を再開してから飛行回数や特に夜間訓練が多くなったと感じるが実情はどうか。

**A** 国防上の基地の運用に関わることであり、小松基地から回数等の量的な情報は得ていない。

**Q** 告示後住宅への対応について、スケジュールや区域、対象件数はどうか。

**A** 告示後住宅の防音工事について、近畿中部防衛局に、今後の詳細な方針・計画を早急に示すよう求めている。対象戸数は650世帯と近畿中部防衛局から報告されている。

### ◆ケーブルテレビについて

**Q** 本市との連携は。

**A** テレビこまつと、議会中継などの情報発信や災害情報共有の体制を構築している。

**Q** 未視聴エリアはどこか。またその対応についてはどう考えているか。

**A** 未視聴エリアは、長崎町、坊丸町、小島町、浮柳町、鶴ヶ島町、安宅新町、東山町の一部と聞いている。ケーブルテレビを引くか

等は各団体の判断であり、他民間サービスとの兼ね合いもあり、市の補助は難しいと考えている。

### ◆ごみ減量化に向けた制度見直しについて

**Q** 家庭系可燃ごみの推移は。

**A** 平成20年度を基準とした削減率は、指定袋導入2年後の平成30年度は20%、昨年度は18.1%とリバウンド傾向がみられる。

**Q** 一人当たりの年間排出量は。それを45ℓ袋で換算すると何枚になるか。

**A** 令和3年度1人当たり143.6キロ、45ℓ袋で19.14袋となる。

**Q** 指定袋無償配布制度の廃止と、指定袋を有料化するということが。

**A** 一部無償の制度を廃止する。

**Q** コロナ禍、物価高、燃料高といった実情を踏まえ、令和5年4月の見直し時期を再検討、遅らせるべきと考えるが。

**A** コロナ禍の集ごもり需要により家庭から出るごみの量がさらに増えており、今、新たな制度改革が必要と考えている。



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一問一答

安心して、長く働ける職場づくりを

◆市民病院の人材定着について

**Q** 先日、看護師の離職状況を心配する相談を受けたが、定年退職以外で離職した看護師の数とその理由は。

**A** 離職数は平成29年度12名、30年度15名、令和元年度16名、2年度14名、3年度19名。退職理由は令和2年度が市外転居、現場業務への異動が6名で最多、次に育児4名。3年度は親や子の介護4名、育児3名、転職が3名である。

**Q** 人材を定着させる取組は。

**A** 5月から2交代制勤務と3交代制勤務の混合シフトに移行した。

◆原油価格高騰対策費について

**Q** 事業者支援として農林水産、運輸交通だけでなく、フリーニング業への支援を。

**A** 燃料価格の推移、経営状況を注意深く観察し、検討していきたい。

◆小松大学の就職状況について

**Q** 県内出身者と県内就職者の割合は。

**A** 県内出身者は57・9%。県内就職者は191名のうち

103名で53・9%。

**Q** 大学設置の目的である「若者の県外流出を抑える」ことは出来たと考えるか。

**A** 県内出身者が例年5割から6割を占め、全国から学生が入学していることから、一定の効果はあったと考える。

**Q** 看護学科から地元の小松市民病院に就職した学生がゼロの理由は。

**A** 高度医療を習得できる金大附属病院に多数の学生が応募したことから、新型コロナウイルスでの実習が行えなかったことも理由のひとつ。

◆インボイス制度導入の影響は

**Q** シルバー人材センターにおける制度導入時の消費税納税額は。

**A** 令和3年度の実績で試算すると2千万円程度増加する。

**Q** 公益法人であるセンターは新たな税を負担する財源はないのか。

**A** この制度はセンターの運営に多大な影響を及ぼすことから国に適用除外を求める要望書が出されている。本市も最終的な結論を見極め、今後適切に対応していきたい。



円地 仁志(えんちひとし)議員

一問一答

小松空港中期ビジョン策定  
検討委員会について

◆検討委員会の概要について

**Q** 委員会の議題は。

**A** 小松空港の情勢、小松空港の民間委託、滑走路の現状、空港ターミナルビルの4点。

**Q** これまでの経緯は。

**A** 新型コロナウイルス感染症の拡大により一旦休止したが、国の民営化調査の最終報告や社会経済活動の再開傾向により、今回第2回が開催されることになった。

**Q** 6月2日の委員会での議論は。

**A** 今後、航空需要の減少が想定されるが、需要の確保に努められるべき。観光需要が高まることも想定されるため、現在の空港ビルは少し手狭で、建て替えが必要。第2滑走路は、空港運営の民間委託、空港ビル建て替えの検討に大きく影響することから、議論を優先して進め、結論を出すべきである。という意見が出された。

◆第2滑走路について

**Q** 第2滑走路の議論を優先することだが、安宅新産業団地の計画に影響が出ることを危惧する。この問題への姿勢は。

**A** 小松空港に隣接するので、小松空港中期ビジョン策定検討委員会にて議論を進めていくべきとした。第2滑走路の議論は1年で結論を出すべきだと考えている。

**Q** 安宅新産業団地の今後のスケジュールは。

**A** 令和4年度末に工事完了、令和5年度には分譲を開始する予定。

**Q** 周辺住民を犠牲にすることはあってはならない。周辺住民への配慮が必要。

**A** 飛行の安全安心や騒音対策など、地域住民の安心した生活環境づくりは非常に大切と考えている。



安宅新地区産業団地整備エリア